

ヘリコプターで検査区の上空を一層

ブラインドスキーマ サポートに恩返し

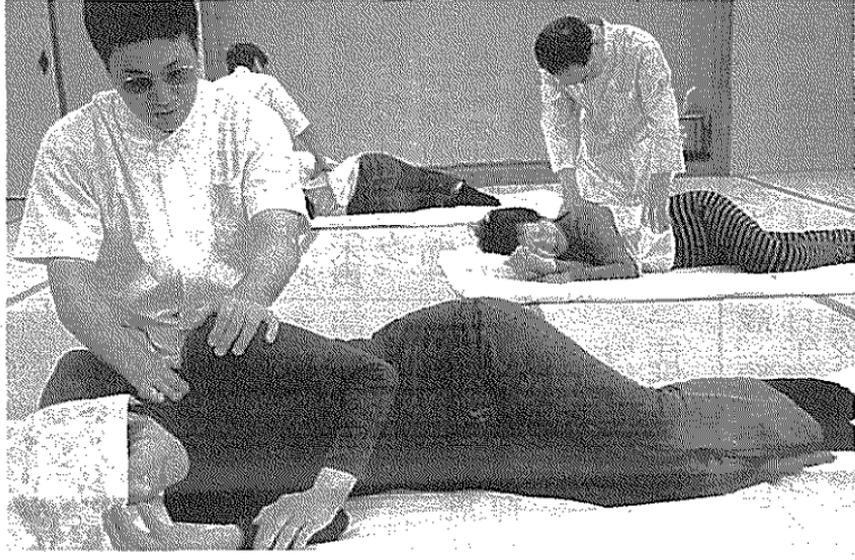
感謝込めてマッサージ

ブラインドスキーマのボランティア活動に恩返しする「マッサージボランティア」が十三、十四の両日、妙高市の妙高高原ふれあい会館で行われた。視覚障害を抱える人々がスキーを楽しむ際、伴走するなど協力する地元スタッフに対し、専門職であるマッサージで感謝の気持ちを伝え

た。ボランティアスタッフほか、同館温泉施設の利用者にもマッサージを
行い、「気持ちいいわ」と喜ばれていた。妙高高原のスキー場でブラインドスキーマを受け入れ、支援するのは十数年前から。東京で活動をサポートするTAB Sの岡田隆靖さんも「妙高はサポート体制が定着して心配ない」と話すほど、利用者からの評判は高く、誰もがスキーを楽しめる環境づくりがボランティアの手で進められている。地元サポー

ターへの恩返しを考えた結果、今回妙高初の企画として実施された。

十五年前に失明し、親しんでいたスキーをいったんはあきらめた市川弘行さん(45)はブラインドスキーと出会い、パラリンピックの強化選手に指定されるまでに上達。「妙高は滑りやすい。急こう配も、長さも楽しめる」と毎年のように訪れる一人。「皆さんのおかげでスキーを滑らせて頂くといいですね」と感謝の言葉を込めて話していた。



スキーボランティアの恩返しにマッサージ